

南淺川橋架設工事

東京府橋梁課

畏くも大正15年12月25日大正天皇神去りまし、みさゝぎの地を東京府南多摩郡横山村地内に定めらるゝや、府は直に工を起し、東淺川假停車場を起點とする延長517間幅員7間の参道を開鑿せり。之が南淺川を横断する個所には橋長43間、幅員4間の簡素なる木橋を架設せり。

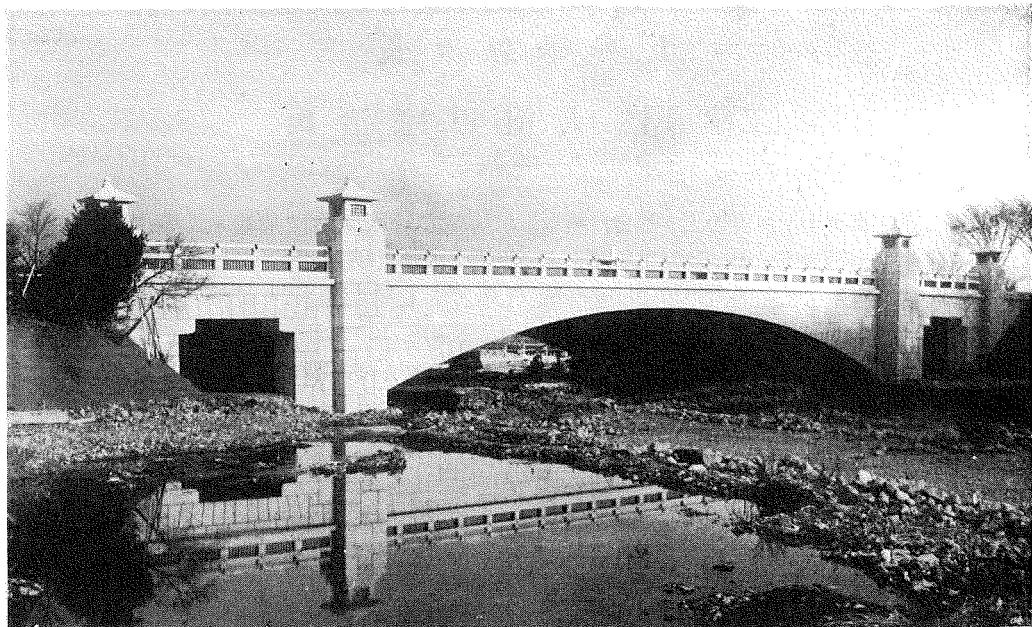
更に其後此の南淺川橋は昭和3年9月に至り、幅員4間を増設されたるも、經年漸く腐朽を來したるを以て、昭和8年12月通常府會の議決を経て、豫算157,500圓を以て新橋架設計畫樹立し、次いで昭和10年10月工費139,450圓を以て株式會社清水組請負の下に着工

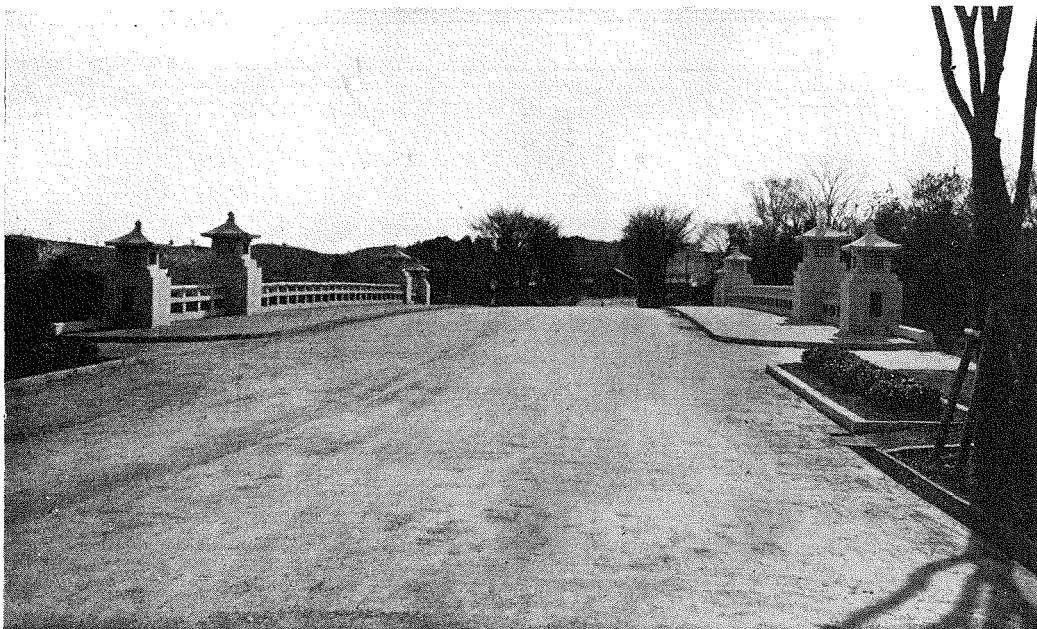
し、昭和11年12月に至る1年2ヶ月の日子を費し遂に竣工開通を見るに至れり。

本橋の位置は西1杆にして皇靈永久に鎮まります多摩陵に至る神苑關門に位し、多摩陵を含む八王子都市計畫武藏陵風致地區内の樞要の個所に在り。されば本橋の技を近代技術に取ると雖も意匠は傳統に生くる古典精神を以てし、清楚、簡潔、崇嚴良く神域の環境に沿はん事に努めたり。目下工事中の河川改修工事及橋畔風致施設近く完了の豫定にして之が完成の曉には更に一段の光彩を添ふるを疑はず。

(安田伊三郎)

(1) 竣功せる南淺川橋の側面。





(2) 竣功せる南浅川橋の正面。

工事概要

橋梁所在地名及河川名 東京府南多摩郡淺川町横山

村入會 南淺川架橋

架橋道路種及名稱 府縣道第 259號東淺川假停車場

武藏陵墓地線

橋格(採用荷重種類) 三等橋(第二種荷重)

工事施工期間 自昭和10年10月14日至昭和11年12月
10日

請負者 合資會社清水組

橋種 鐵筋混泥土拱橋

橋長 53.30米 1:80拋物線勾配

有効幅員 車道12.60米、歩道各3.70米計20米

橋面積 1,066平米

構造材種

橋體工

寸法大要 中央徑間32米充側拱橋、側徑間各10.

45米框式板桁

使用混泥土量 2,878.3立米

使用鐵筋量 203.7噸 橋面平米當 0.19噸

地質種類 砂及玉石混り砂利層

基礎 巍打基礎、杭長4.5米末口15噸

張石工

張石面積 359.8平米

張石厚 20釐

使用石材 4,250切

高欄親柱工

高欄使用石材 1,070切

親柱使用石材 910切

親柱寸法 縦1.8米横1.8米高3.8米、縦1.5

米横1.5米高3.2米各4基

高欄格子 練鐵製黑色ラッカ吹付

燈籠格子 青銅製

舗装工

車道舗装 トペカ式舗装、厚6釐、舗裝面
積671.6平米

歩道舗石 舗石面積442.7平米舗石1個縦70
釐横35釐厚12釐

歩道使用石材 1,905切

材料一括

混凝土 1:2:4 1,670立米 1:3:4 1,650立米

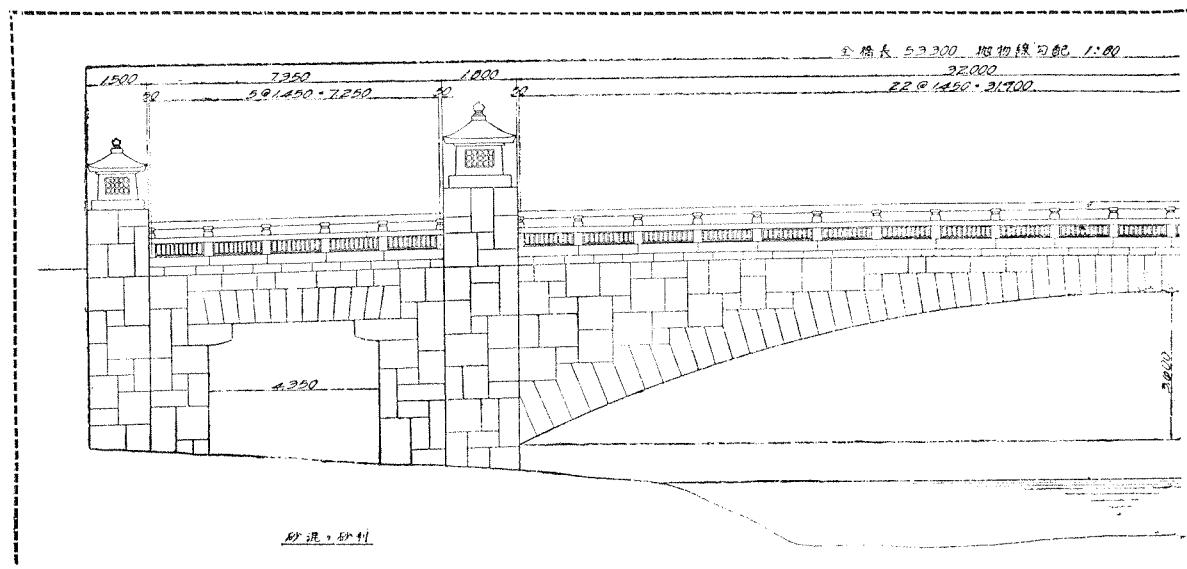
計 3,320立米

鐵筋 206.7噸

石材 7,540切

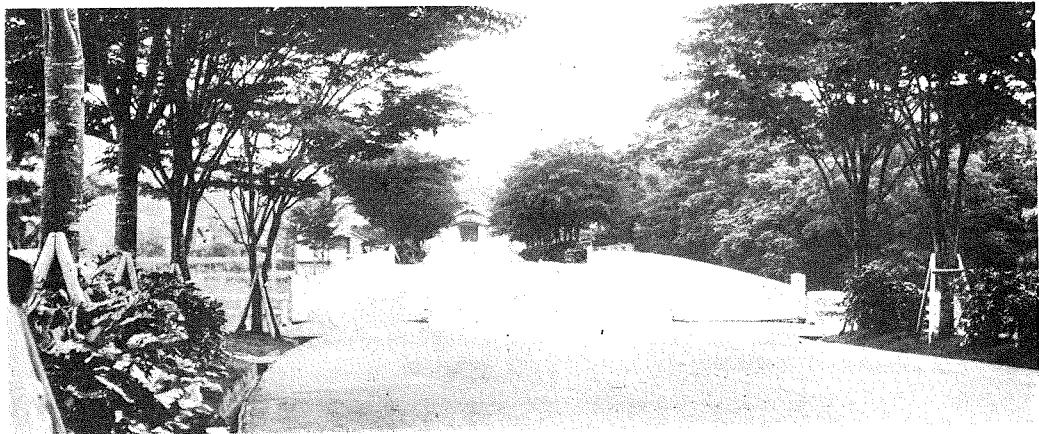
労働者

大工 1,500人 (以下122頁へつづく)

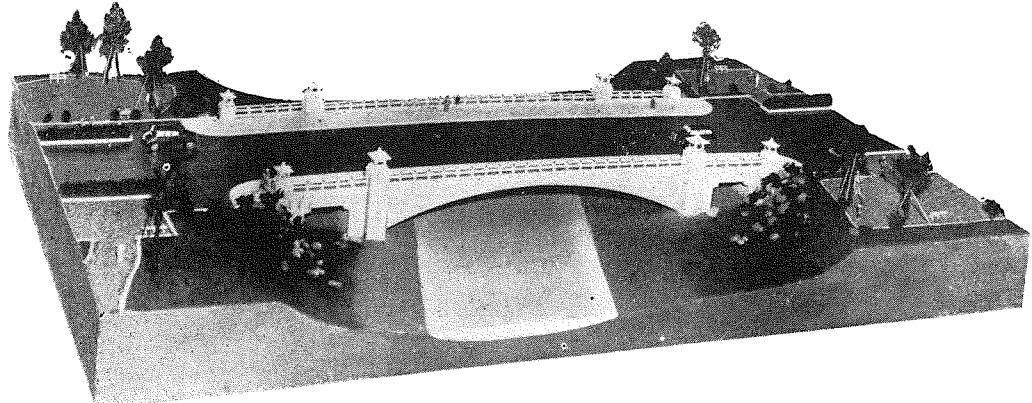


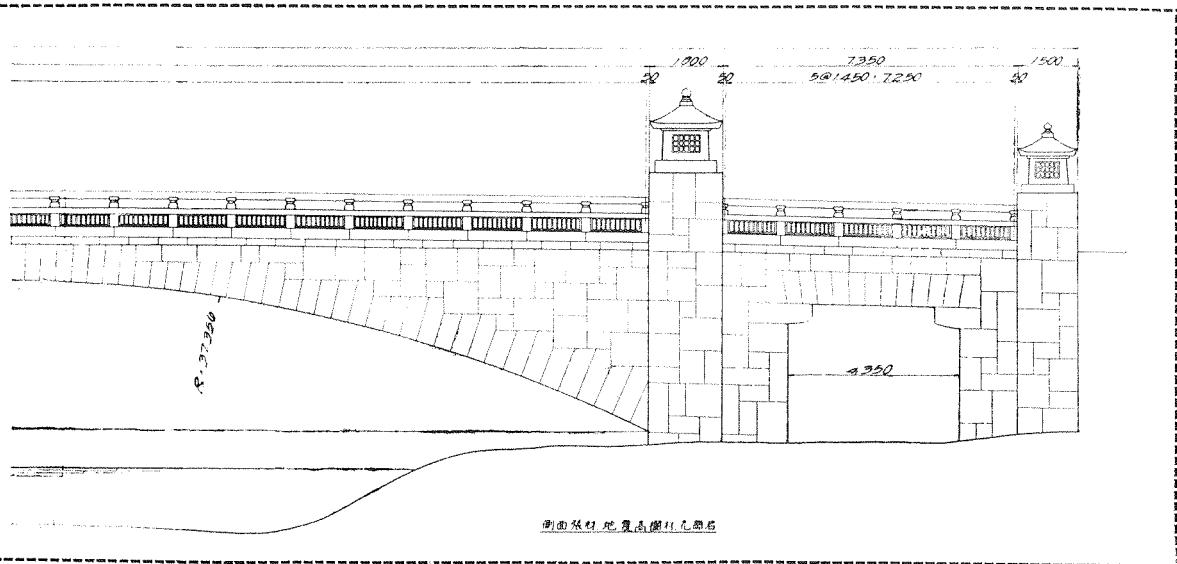
(3) 南淺川橋

(4) 舊橋。



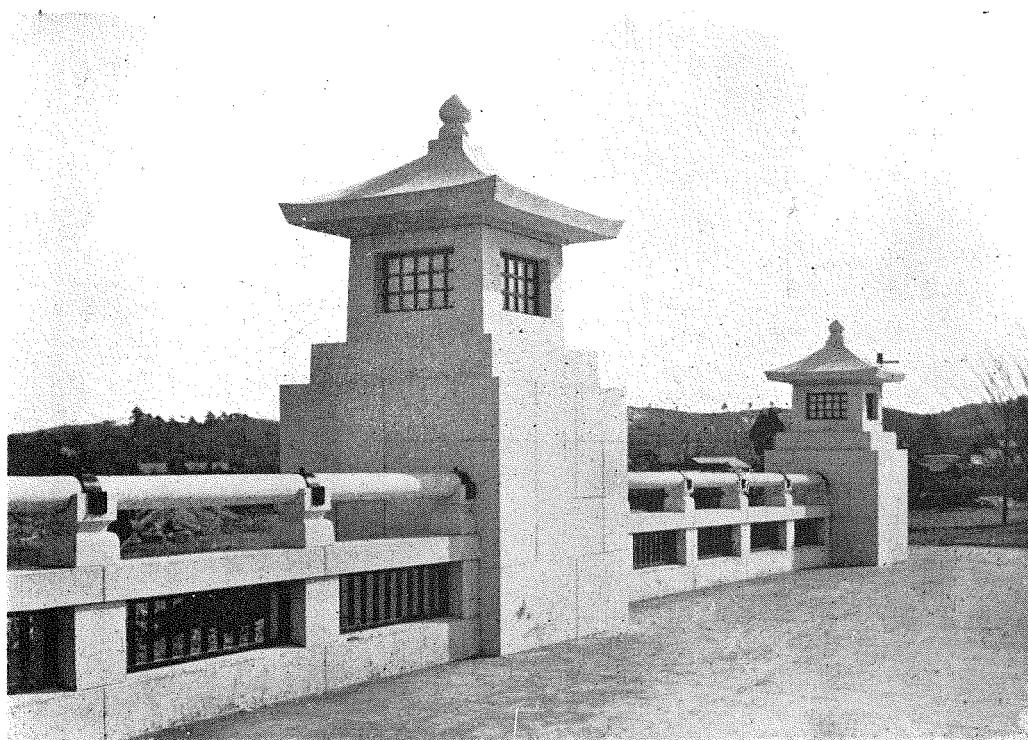
(5) 模型。

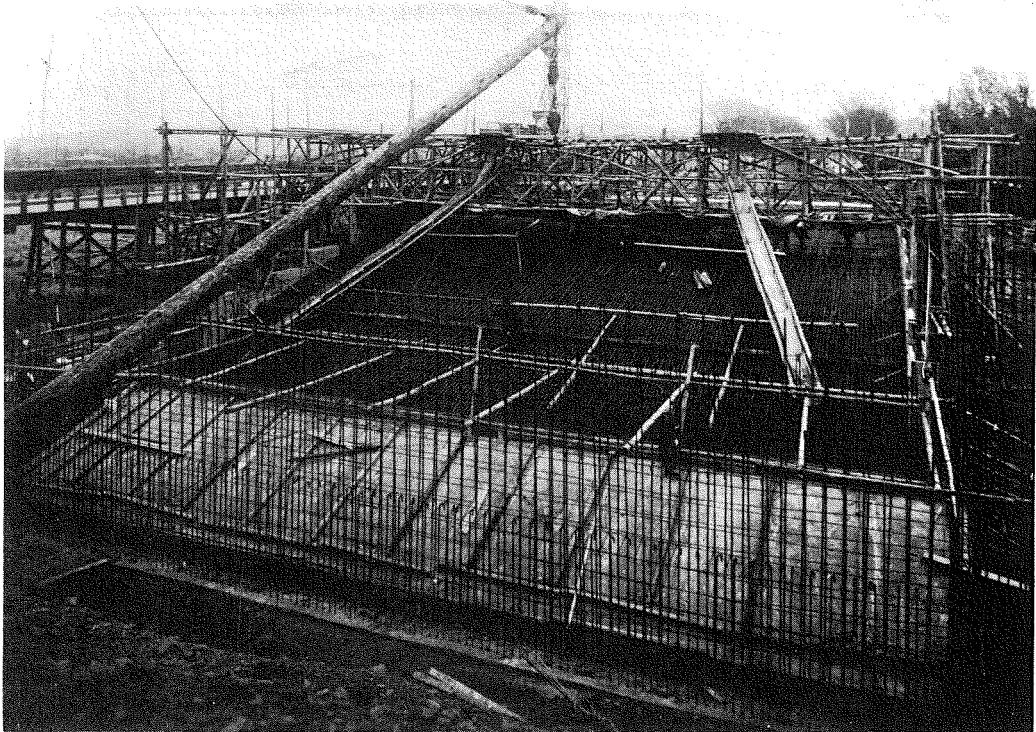




一般側面圖。

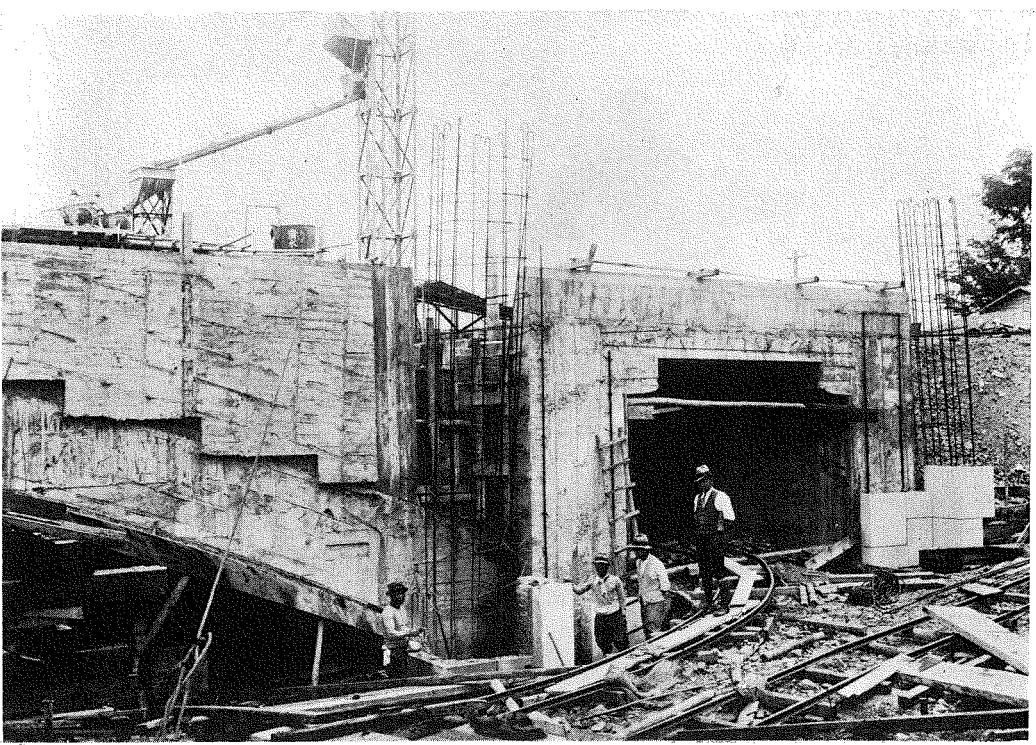
(6) 親柱と高欄。

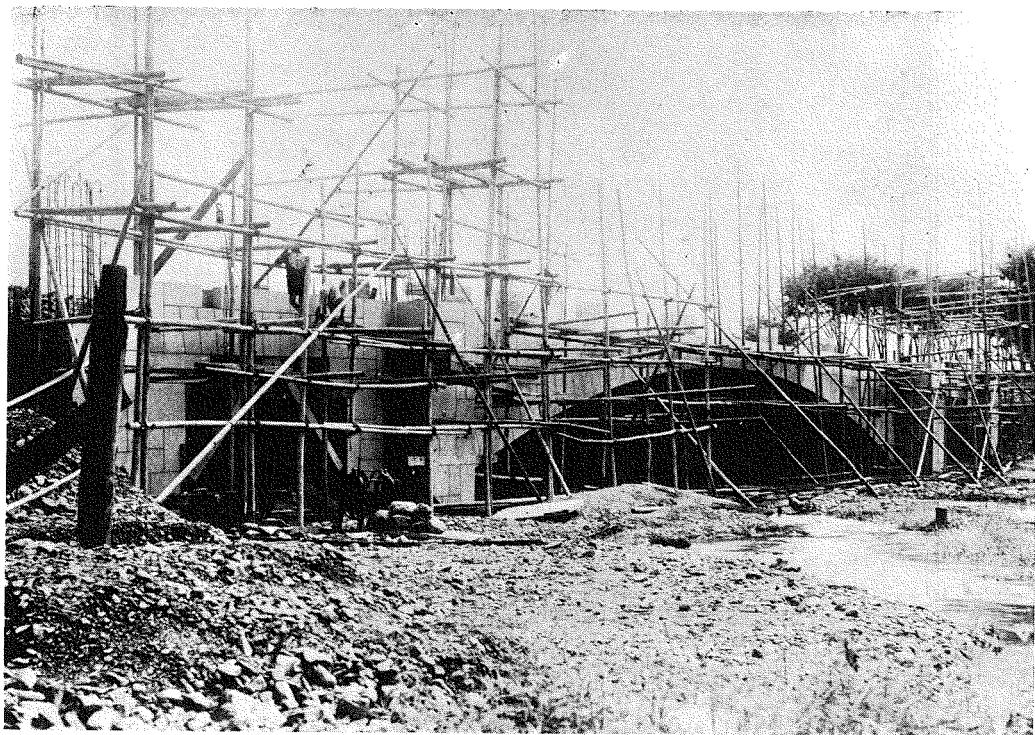




(7) 鐵筋組立中の状況。

(8) 石積施工。





(9) 石 繼 狀 況。

(10) 工 事 中 の 出 水。

